

横浜国立大学 副専攻プログラム

Yokohama National University Undergraduate sub-major program

# 地域交流科目

## 履修案内 2020

"Local-exchange Subjects" 2020 Syllabus

YOKOHAMA

### オリエンテーション

\* 状況によって開催を変更する場合がありますので、  
下記 HP・QR サイトで情報を確認してから参加下さい。  
<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>

(予定) 4/13(Mon)

4/15(Wed)

4/17(Fri)



昼休み：中央図書館メディアホール

グローバルな視野をもって地域課題を解決する  
先端的かつ複合的な**実践能力を身につける**プログラム

This program trains students to solve local challenges  
with a global perspective and acquire advanced, integral, practical skills.

# 『地域交流科目』の概要

Outline "Local-exchange Subjects"

グローバル化が進むなかで、実際の経済活動の場である都市・地域の活力を維持し、そこに生活する市民の生活の質をいかに高めていくかが、21世紀初頭の課題になってきています。

このような現代的課題とニーズに対応するため、本学では、「教育学」「経済学」「経営学」「理工学」「都市科学」が連携して、各学部領域を横断して学べる副専攻プログラム「地域交流科目」を設置し、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラムを設けています。

## \*副専攻プログラムとは

副専攻とは、自分自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学習するプログラムです。

副専攻プログラムである「地域交流科目」は、「地域」に関わる知識を学部横断型で学び、地域への「交流」を踏まえながら、実践能力を身につける副専攻プログラムとなっています。

## \*副専攻プログラムの修了認定

- 修了認定の要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。
- 修了が認定されると、成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム（地域実践）修了」と記載されます。
- これまでの実践的な取り組みを就職や進学の際に端的にアピールするものとして効果が期待できます。

## \* About the Undergraduate sub-major program "Local-exchange Subjects"

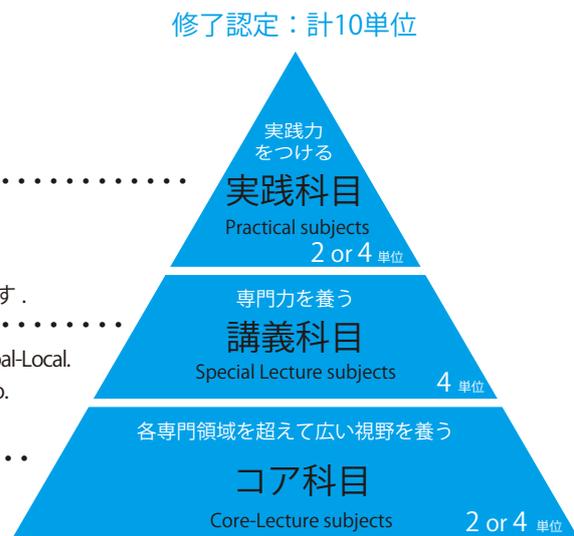
Local-exchange Subjects connects independent subjects from all departments to train students as young talent who can solve local challenges with a global perspective. This program consists of ①Core-Lecture subjects, ②Special Lecture subjects, ③Practical subjects. On completion of these ten credits through attendance and participation, the student will be awarded a completion certificate for the accredited sub-major program.

## \*地域交流科目のプログラム体系

- 実践科目は各地域の課題を解決するために実践的活動です。
- 地域課題実習やその他の実践的な授業から、学生は選択できます。
- 多くの学生が複数年にわたり履修・参加しています。
- The Practical subjects are active to solve the problem in local. ....
- Student can select a project from the Local Challenges Trainings.
- Many students are studying it over the years.

- 講義科目は各学部から提供されている地域に関する専門的講義です。
- 自分自身が所属する学部以外の講義の受講が可能です。 ....
- Special Lecture subjects are picked up by each department about the Global-Local.
- It is possible to take the lectures outside of the department you belong to.

- コア科目では地域に関する基礎的な知識を学べます。 ....
- 地域で活躍する教員・実務者・行政によるオムニバス講義です。
- Learn about the basics of local areas.
- Omnibus lecture by the professor, businessman, government.



単位の修得例：

コア科目 4 単位 + 講義科目 4 単位 + 実践科目 2 単位 = 計 10 単位

コア科目 2 単位 + 講義科目 4 単位 + 実践科目 4 単位 = 計 10 単位

## \*プログラム改訂に伴い、修了要件以外の下記事項も改訂されました。

- 2018年度までは修了申請の際に「レポート」の提出が必須とされていましたが、2019年度以降に申請する場合は「レポートなし」で申請することが可能となりました。
- 2018年度までは修了認定を受けた学生には「修了証（賞状）」が授与されていましたが、2019年度からは「修了証（賞状）」の発行および授与はなくなりました。

# 履修・申請の流れ

Step for the take the subjects and applications



## 「オリエンテーション」

予定：4月13日(月),15日(水),17日(金) 昼休み

場所：中央図書館メディアホール

\* 状況によって開催を変更する場合がありますので、センターのHPで情報を確認してからご参加下さい。  
<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>

地域交流科目の説明や、地域課題実習の各プロジェクト等の紹介があります。教員や昨年から履修・参画している学生達からの楽しく充実したプレゼンテーションが盛り沢山。気になる方は、来てみてください！



## 「履修登録」

副専攻として履修する単位が、各学部における卒業取得要件と重なる場合は、どちらの単位としても認められます。

最重要

実践科目：「地域課題実習」を履修・参画する全員の方へ：

地域課題実習のI,II,III,IVのいずれかを履修登録した上で、

「所属したいプロジェクト (p.5,6掲載)」については  
下記サイトから登録申請してください

どのプロジェクトに所属したいか、右のQRコードのサイトから登録申請をしてください。  
(登録申請をしないと成績が付きません！)

■ 申請×切は4月17日(金)午後5時まで

・QRコード先から登録できない人は、下記サイトから「『地域課題実習』参画プロジェクト希望用紙」をダウンロードして地域実践センターに提出してください。  
<http://http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/education/sanka/>

検索



地域課題実習は1年間を通じて同じプロジェクトを履修・参画してください。

要既読

地域課題実習を「単位履修なしで参画したい人」も所属したいプロジェクトの登録申請をして下さい。

要既読

秋学期に「地域課題実習II or IV」を履修登録し忘れないように！  
忘れる人が多いです。>\_<;

要既読



## 「地域交流科目」 計 10 単位

「地域交流科目」は、4年間をかけて、どの科目・授業から履修しても良いです。

修了認定申請書

## 「修了認定」の申請

\* 修了認定は自己申請によって認定されます。

修了認定の要件：

- ①：コア科目 2単位以上 取得
- ②：講義科目
- ③：実践科目 2単位以上 取得
- ④：上記①と③の合計6単位以上
- ⑤：講義科目と合わせて上記①~③の合計が10単位以上
- ⑥：上記①~③の申請の単位計がGPA 3.0以上

\* 申請には下記の2点の書面が必要です。

1:修了認定申請書

地域実践センターHPの「教育」ページの下記or右のQRサイトから「修了認定書」をダウンロードしてください。

<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/education/syuryou-ug/>

2:成績証明書



申請×切：4/17, 11/20, 2/19\*

\*2月の申請時期は、主に卒業年次の学生を対象としています。申請の際には、当該学期(秋学期)が反映された成績証明書は発行されませんが、その成績証明書も併せて提出ください。秋学期分の成績は事務局系統で各学部の学務担当に照会をかけて確認します。

修了認定は自己申請によって認定されます。修了申請を出すタイミングは、単位取得直後でも、就活・進学前の時期でもOKです。

要既読

- ・申請の×切後：1ヶ月以内には認定がされます。
- ・提出は随時受け付けています。

\*申請先：

地域実践教育研究センター：

経済学部1号館 (N4-1棟), 406室

<教員が不在の場合は、扉のフォルダー (ポスト) 内に  
入れておいてください。>

# 「地域交流科目」一覧

The List of the "Local-exchange Subjects"

- 各授業の内容は、全学教育科目および各専門科目のシラバスをご確認ください。
- 修了要件：「①コア科目：2単位以上」、「②講義科目」、「③実践科目：2単位以上」のうち、  
①コア科目と③実践科目の合計が6単位以上、①～③の合計が10単位以上かつ①～③の申請の単位計がGPA 3.0以上。
- 本副専攻の内容に相当する内容の「理工学部ROUTEプログラムのプロジェクト」は認定において実践科目2単位相当と位置づける。

カテゴリー	履修学部	科目名	担当	対象学年	開講期	単位	備考欄
コア科目	全学教育科目/ 教養教育科目	地域連携と都市再生A (ヨコハマ地域学)	志村、内海	1～4年	春	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修
		地域連携と都市再生B (かながわ地域学)	志村、池島、伊集	1～4年	秋	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修
		神奈川のみらい	林田	1～4年	春	2	H31からコア科目
		横浜学—地域の再発見—	安野	1～4年	春	2	H31からコア科目
講義科目	全学教育科目/ 教養教育科目	建築の環境と防災	杉本 他	1～4年	秋	2	※一部学科・EP(建築系) 履修不可
		ベンチャーから学ぶマネジメント	井上 他	1～4年	秋	2	
		現代の物流経営	松井	1～4年	秋	2	
		環境をめぐる諸問題Ⅰ	酒井 他	1～4年	第4ターム	1	
		環境をめぐる諸問題Ⅱ	松田 他	1～4年	第5ターム	1	
		グローバル化と日本人	市村	1～4年	秋	2	
		色彩論	渡辺	1～4年	春	2	
		健康スポーツ演習B	海老原	1～4年	春	2	ウォーキング (R2特開期コード：9109148)
		安全・環境と社会	澁谷 他	1～4年	春	2	
		エネルギーと環境	辻	1～4年	春	2	
		海事技術史	南	1～4年	春	2	
		海洋工学と社会	海洋EP各教員	1～4年	秋	2	
		物質工学と社会	大谷	1～4年	春	2	
		システム・エンジニアリング	田村	1～4年	春	2	
	海と地域のつながりと活性化	林田 船場 他	1～4年	秋	2		
	教育学部	自然地理学	吉田	2～4年	秋	2	
		日本史概論Ⅰ	多和田	2～4年	秋	2	R2は休講 (隔年開講)
		生物学特講Ⅰ	西	2～4年	秋	2	
	経済学部	地方財政	伊集	4年	通年	(	H28以前入学生
		地方財政	伊集	2～3年	春	2	H29以降入学生
		中級地方財政	伊集	3年	秋	2	H29以降入学生
		地域経済政策	陳 延天	4年	通年	(	H28以前入学生
		地域経済政策	陳 延天	2～3年	春	2	H29以降入学生
		中級地域経済政策	陳 延天	3年	秋	2	H29以降入学生
		国際環境経済論	氏川	4年	通年	(	H28以前入学生
		国際環境経済論	氏川	2～3年	春	2	H29以降入学生
		中級国際環境経済論	氏川	3年	秋	2	H29以降入学生
現代社会福祉		角 能	4年	秋	(	H28以前入学生	
現代社会福祉		角 能	2～3年	第4ターム	2	H29以降入学生	
中級現代社会福祉		角 能	3年	第5ターム	2	H29以降入学生	
比較農業政策		池島	4年	春	(	H28以前入学生	
比較農業政策		池島	2～3年	第1ターム	2	H29以降入学生	
中級比較農業政策		池島	3年	第2ターム	2	H29以降入学生	
課題プロジェクト演習 地域経済		池島	2～4年	秋	2	経済学部生のみ受講可	
途上国経済		山崎	4年	通年	(	H28以前入学生	
途上国経済		山崎	2～3年	春	2	H29以降入学生	
中級途上国経済		山崎	3年	秋	2	H29以降入学生	
地域イノベーション政策		遠藤	2～4年	秋	2		
民法Ⅳ	常岡	4年	春	2	H28以前入学生		
家族と法	常岡	3～4年	春	2	H29以降入学生		
経営学部	産業分析 (※公的規制論から変更)	貴志	3～4年	春	2		
	Operations Management	松井	3～4年	春	2	旧：生産システム論	
	生態会計論	八木	2～4年	春	2	旧：生態会計論Ⅰ	
理工学部	環境管理学	中井	3～4年	秋	2		
	データサイエンス	森、田村、長尾、富井	3～4年	春	2		
都市科学部	国際開発学講義	佐藤 (峰)	1～4年	秋	2		
	都市生態学	佐々木	1～4年	第4ターム	1		
	保全生態学	佐々木	2～4年	第5ターム	1		
	生態リスク学入門	松田 他	1～4年	第1ターム	1		
	里地と山地の生態学Ⅰ	小池 (文) 他	2～4年	第4ターム	1	H29以降入学生	
	里地と山地の生態学Ⅱ	酒井 他	2～4年	第5ターム	1		
	都市基盤計画論	中村	1～4年	第1ターム	1		
	都市計画と交通	中村	2～4年	第4ターム	1		
都市基盤解析論	中村	2～4年	春	2			

講義科目	都市科学部	居住空間の計画 I	藤岡	2~4年	第1ターム	1	H29以降入学生
		居住空間の計画 II	藤岡	2~4年	第2ターム	1	
		建築環境計画 I	田中 (稲)	2~4年	第1ターム	1	
		建築環境計画 II	田中 (稲)	2~4年	第2ターム	1	
		都市と都市計画 I	高見沢	2~4年	第4ターム	1	
		都市と都市計画 II	高見沢	2~4年	第5ターム	1	
		都市環境リスク共生論 A	佐土原	2~4年	第4ターム	1	
		都市環境リスク共生論 B	佐土原	2~4年	第5ターム	1	
		コミュニティ開発演習 I	佐藤 (峰)	2~4年	第1ターム	1	
		コミュニティ開発演習 II	佐藤 (峰)	2~4年	第2ターム	1	
		高齢社会とリスク A	安藤	2~4年	第4ターム	1	
		高齢社会とリスク B	安藤	2~4年	第5ターム	1	
		環境・エネルギーシステム論 I	鳴海	2~4年	第4ターム	1	
		環境・エネルギーシステム論 II	鳴海	2~4年	第5ターム	1	
都市・地域経済学 I	遠藤	2~4年	第1ターム	1			
都市・地域経済学 II	遠藤	2~4年	第2ターム	1			
実践科目	全学教育科目/ 教養教育科目	地域課題実習 I	志村 他	1~4年	春	1	H31から実践科目 H31から実践科目 単位は取得できないが地域 交流科目では2単位相当と 位置付ける
		地域課題実習 II	志村 他	1~4年	秋	1	
		地域課題実習 III	志村 他	2~4年	春	1	
		地域課題実習 IV	志村 他	2~4年	秋	1	
	実践地域と起業	林田 井手	1~4年	第3ターム	2		
教育学部	学外活動・学外学習 I	津野	1~4年	春・秋	2		
理工学部	ROUTEプロジェクト	理工学部各教員	1~4年	-	*		

●昨年度まで地域交流科目の選択必修科目（講義科目）に登録されていた講義で、今年度から閉講になっている講義も、修了認定をするための科目として位置づけられます。

## 閉講科目等はこちら

講義科目	全学教育科目/ 教養教育科目	健康スポーツ演習B	R元年度まで開講	-	-	2	鳴海実習 (910914B)、スキー (910915Z) ※H29「グローバル化と日本人」科目名変更
		グローバルビジネス・コミュニケーション	H29年度～科目名変更	-	-	2	
		環境をめぐる諸問題	H28年度まで開講	-	-	2	
		健康スポーツ演習B (木・3限)	H28年度まで開講	-	-	2	
	教育人間科学部	共生社会論ID (社会生活論)	R元年度まで開講	-	-	2	
		共生社会論II B (国際社会学)		-	-	2	
		グローバル化と地域社会 II		-	-	2	
	理工学部	ノンバーバルコミュニケーション	H28年度まで認定	-	-	2	R元年度まで認定
		環境と人間	H28年度まで開講	-	-	2	
		地域・都市計画	-	-	-	2	
都市基盤計画		-	-	-	2		
交通計画		-	-	-	2		
居住空間の計画		-	-	-	2		
屋外気候と建築環境		-	-	-	2		
都市と都市計画	-	-	-	2			
建築・地域環境計画 I	-	-	-	2			
都市生態学	-	-	-	2			
生態リスク学	-	-	-	2			
里山生態学	-	-	-	2			

## 実践科目の紹介 (地域課題実習は次頁にて紹介)

下記の紹介掲載欄の①～⑥の項目内容：①授業・プロジェクトの目的、②履修・到達目標、③授業計画、④授業・プロジェクトの方法・進め方、⑤備考、⑥活動情報掲載サイト

実践地域と起業	学外活動・学外学習 I	ROUTEプロジェクト
<p>担当教員：○林田 昌也、井出 美由樹 (成長戦略センター) 時間割コード:9101059/開講時期：春学期/開講：全学教育・教養教育</p> <p>①高齢化や過疎化、伝統産業の衰退など多くの課題を抱える地方において、フィールドワークとグループディスカッションによって課題の本質を理解し、起業（事業・社会）という手段によって解決を図るアプローチと手段を習得する。本授業は本学と連携協定を締結している南足柄市の協力のもと開講する。</p> <p>②南足柄市の地域としての課題が把握され、起業という手段を用いて課題を解決するプラン作りができています。</p> <p>③8月4～6日（予定）に南足柄市内で合宿を行う。</p> <p>④現地での合宿授業のため定員を20名とする。20名を5名ずつのグループに分け、フィールドワーク・プラン作りの実習を行い、プレゼンテーションを行う。</p> <p>⑤4月8日（水）12:15よりオリエンテーション（中央図書館メディアホール）を行うので、履修希望者は必ず出席のこと。上限を超える場合は抽選を行う。参加者を決定後6月に（日程別途調整）メンバー顔合わせと事前レクチャーを実施する。</p>	<p>担当教員：島田 広 (教育学部) 時間割コード:7091007/開講時期：春学期/開講：教育学部</p> <p>①②自らの意志でボランティア活動に参加し、社会貢献の意義に気づくとともに、その結果を学内での教育研究活動に生かすことを目的とする。この授業では、地方公共団体や非営利目的諸団体等、社会全般におけるボランティア活動を対象とするものである。</p> <p>③1.オリエンテーション、2-3.各自のテーマならびに活動先の探索活動、4.中間報告会、5-13.決定したテーマによる活動の実施、14.活動の総括、15.最終活動報告会</p> <p>④4月中旬に実施されるオリエンテーションに続き、社会全般で広く行われているボランティア活動を実際に行う。主として学外で行われる活動・学習に対して、一定の要件を満たすものを各自が探すとともに実際に活動を行い、その結果を発表し質疑応答する。</p> <p>⑤中間報告会への出席とボランティア活動団体による活動評価、レポートおよび活動報告会の結果により評価する。</p> <p>⑥ <a href="https://ynugakugaikatudou.jimdo.com/">https://ynugakugaikatudou.jimdo.com/</a></p>	<p>担当教員：理工学部 教員 *単位は取得できないが地域交流科目では2単位相当と位置づける。</p> <p>①ROUTEとはResearch Opportunities for Undergraduatesの略称をならべたもので、学部学生のみならず理工学の最先端の研究に参加できるプロジェクトです。</p> <p>②参加するみなさんが早い段階から研究の面白さを知ると共に、とく受け身になりがちな講義にもより一層興味を持って積極的に取り組めるようになることを期待しています。</p> <p>③ROUTEウェブサイトのProject Listから興味のあるプロジェクトを選択し、申込み締切日までにプロジェクトを担当する教員に参加申込みのメールを送ってください。学年、学籍番号、氏名、面接が可能な日時を「複数」記載してください。面接等をふまえて選抜結果は指導教員より個別に連絡します。</p> <p>④担当教員の研究指導のもと研究プロジェクトを遂行します。年度末には合同の成果発表会が行われます。</p> <p>⑤ <a href="http://es-route.ynu.ac.jp/">http://es-route.ynu.ac.jp/</a></p> 

# 実践科目：地域課題実習

Practical subjects: the Local Challenges Trainings

下記の紹介掲載欄の①～⑥の項目内容：

- ①概要・目的・活動の流れ、②年間スケジュール、③当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力、④活動・ミーティングの頻度、⑤備考、⑥活動情報掲載サイト

**01 はまみらいプロジェクト**

担当教員：○吉田聡 (都市イノベーション研究院) 連絡先: yoshida-satoshi-vx@ynu.ac.jp / 内線: 4249

①横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係を考えながら、横浜の未来を考えるプロジェクト。具体的には「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に取り組んでいく。

②2週に1回程度のミーティング、2か月に1回の外部組織(UDC-SEA)との会議を通して、年に2-3回のイベントを企画、開催予定。

③横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係を考えながら、具体的に地域に対してどのようなアクションを興すことができるか、「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に横断的に考える力をつける。

④月に1回、外部組織(UDC-SEA)との会議。2週に1度程度の会議。外部組織や地域と連携した企画への参画等。

⑤UDC-SEA(ヨコハマ海洋環境みらい都市研究会)と連携して取り組む。

⑥<http://ecorisk.ynu.ac.jp/matsuda/UDCSEA/index.html>

**02 みなとまちプロジェクト**

担当教員：○志村真紀 (地域実践センター) 連絡先: shimura-maki-pw@ynu.ac.jp / 内線: 3579

①当プロジェクトでは静岡市の清水港を対象地としています。この街では、「海洋文化都市」政策を実施しており、海洋文化による資源を活かした観光や産業を推進しています。近年、海外からの観光客が増えていることを再活性化の機会として、本プロジェクトでは、港および周辺の倉庫群・茶・次郎長などをブランディング要素として、港町を再活性化することを目的としています。

②地場産品(お茶)のブランディングデザインや、外国人客に向けた街歩きツアーやカフェの実施、都市空間の活用・分析を実施予定。みなとまちの歴史・産業・空間の特徴の習得し、文理融合な企画力、マネージメント力、コーディネート力、デザインの実力をつけ磨くことに期待ができます。

③4ミーティングは週に1回。土・日あるいは夏休み等に清水へ行って、ミーティングや活動を行うことがあります。

④10人超の場合は人数調整の可能性有。常葉大学、東京大学、九州大学、行政、事業者、市民の皆さんと連携し活動します。

**03 おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト**

担当教員：○野原卓 (都市イノベーション研究院) 連絡先: noharat@ynu.ac.jp / nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線: 4065

①東京有数のモノづくりのまち大田区で、技術×創造×生活が掛け合わさった「クリエイティブタウンづくり」を目指す。地域主体と連携して、地域拠点「くりば多摩川1」での活動実施や、おおたオープンファクトリー(町工場公開イベント)への参画等を通じた地域の課題解決と提案実現を図る。

②4月オリエンテーション、5月～7月企画準備及び地域活動への参画・会議への参加、8月～10月企画に向けて準備作業、11月おおたオープンファクトリー開催(企画実施)、12月～2月活動まとめ。その他、不定期に地域活動の実施や追加あり。

③自発的で積極的な「活動力」、自ら課題をみつけることのできる洞察力、全体を見渡して実効性ある企画を立てる立案力・提案力、地域に入り込んで地域とともに動く「巻き込み力・コミュニケーション力」、小さくてもよいから物事を実現することに力を注げる「実装力」。

④週1回程度のミーティング及び地域活動(地域で月1度程度の会議及び不定期の地域活動(土日に開催されることも多い))

⑤地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。

⑥<https://www.o-2.jp/mono/oo/>, <https://www.o-2.jp/mono/lab/index.html>

**04 YNU×TOYOTA/NISSANプロジェクト**

担当教員：○氏川恵次 (国際社会科学研究院) 連絡先: ujikawa@ynu.ac.jp / 内線: 3538

①トヨタ/日産グループの超小型電気自動車やシンクロシステムを導入した電動自転車、横浜市内の移動(日産:横浜・和田町・羽沢横浜国大駅・他市内)、神奈川県内の移動(トヨタ)にどう活用できるかを考えます。

②4月～5月 説明会、メンバー顔合わせ/5月～7月 基本テキストの講義会、フィールドワーク(初夏)/10月～11月 中間報告会、フィールドワーク(秋季)/2月 最終報告会

③専門分野を問わない。交通・経済の基本的な知識に加えて、企業(日産・トヨタグループ等)・行政(横浜市等)・市民の方々の、交通による新たな付加価値の発掘、まちづくりの知見等に、広くふれていただきます。

④基本的には、週1コマ分に相当する時間で、講義会や、学外でのフィールドワークを実施します。

⑤交流を通じたまちづくりについて、興味関心を持っている方であれば、部局を問わず参加を歓迎します。

⑥<http://toyota-trike.co.jp/>  
<https://nissan-rentacar.com/choimobi-yokohama/>

**05 モビリティ・デザインの学びと実践**

担当教員：○中村文彦, 松行美帆子, 田中伸治 (都市イノベーション研究院) 連絡先: nakamura-fumihiko-xb@ynu.ac.jp / 内線: 4033

①まちづくりの視点で、人々の移動のしやすさ(モビリティ)をデザインする考え方や内外の先進的な事例を学び、実際のモビリティの課題の解決に取り組む事例に参画して、現場の行政担当者や運輸事業者等とも意見交換し、学びを深める。今年度は、車椅子利用者をはじめ誰もが移動できる環境を支援するための課題、羽沢横浜国大駅の活用に関する課題、未来のバス事業の課題、世界遺産芦ノ湖の課題を取り上げる。

②第1ターム 座学(基本的な考え方と事例を学ぶ)/第2ターム 班別作業、学期発表会(学外公開)/第3ターム 適宜現地調査等/第4ターム 班別作業と中間発表会(非公開)/第5ターム 作業仕上げと最終発表会(学外公開)/毎月1回の土曜午後の遠足への参加を強く推奨。

③乗り物についてのマニアックな知識は不要だが、都市交通に関する基本的な考え方や、課題解決への取り組み方を学ぶとともに、先進的な事例の見聞を深める。プレゼンテーション能力を伸ばしてもらうことも期待している。

④第1タームは、週に1度、月曜昼休みに集合する。以降は班ごとの活動。月に一度、土曜午後の遠足への参加を推奨。

⑤昨年度までと運営方法が変わるが、基本的な指導の姿勢は変わらない。インプット部分を増やすため、座学(読書会)の時間が増える。全学対向だが、人数が多い場合は制限をかけることがある。⑥<http://www.cvg.ynu.ac.jp/G4/>

**06 都会のマンション群でのコミュニティづくり**

担当教員：○関 ふ佐子 (国際社会科学研究院) 連絡先: chako@ynu.ac.jp / 内線: 3536

①都会のタワーマンション群における子どもや高齢者の孤立化は喫緊の課題です。こうした地域で、多世代が継続的につながり、ふれあい、助け合えるコミュニティを、地域の自治会や民生委員とともにつくっていきます。

②春学期:現地視察・情報収集などを通じて課題の学習、企画立案。/秋学期:イベント・ワークショップの運営、HP作成、補助金等申請書の作成、報告会。

③自治会関係者、民生委員、ボランティア団体・横浜市民活動支援センター・行政・地区社協の担当職員などとの交流を通じて、コミュニティづくりの課題や解決方法を学びます。高齢社会をめぐる政策を具体的に理解します。

④週に1回程度のミーティング、不定期での地域との打ち合わせ・イベントの計画・参加などを予定。

⑤年間を通じて活動に参加できる人を部局を問わず歓迎します。

**07 ハマの屋台プロジェクト-屋台からのまちづくり考える-**

担当教員：○野原卓 (都市イノベーション研究院) 連絡先: noharat@ynu.ac.jp / nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線: 4065

①「屋台」という道具を使って、地域課題や地域の活力向上に迫る。地域と協働して、地域課題を話し合い、これを解決し力を豊かにするための屋台を企画・設計・製作・活用(経営)までを一気通貫で考える。現在、関内外・北仲・常盤台地区などで活動しているが、他地区での新展開や、屋台まちづくりのシステム構築も視野に入れる。

②4月:オリエンテーション、春学期:昨年度までの活動継続及び新規活動の準備・話し合い、8-9月:必要に応じて地域活動、秋学期:活動の実施・実践、2月:活動報告、(地域との状況による不定期な活動追加あり)

③自発的で積極的な「活動力」、自ら課題をみつけることのできる洞察力、全体を見渡して実効性ある企画を立てる「立案力・提案力」、地域に入り込んで地域とともに動く「巻き込み力・コミュニケーション力」、小さくてもよいから物事を実現することに力を注げる「実装力」。

④2週に1回程度のミーティング及び不定期に地域活動(土日開催もあり)

⑤地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。

**08 まちに開いた交流の場のデザイン-住宅地の価値を上げる-**

担当教員：○江口亨 (都市イノベーション研究院) 連絡先: teguchi@ynu.ac.jp / 内線: 4064

①野毛山公園の裏の住宅地に、二軒長屋を改修して2Fをシェアハウス、1Fを地域に開いた場にした「casaco」がある。その場の使い方を提案し、運営者の理解がえられれば提案内容を実行に移し、エリアの価値向上を目指す。

②(提案内容によって変わりますが、一例を挙げます)4月～7月:現地視察、WSなどの運営の手伝い、企画立案8月～9月:企画選抜/10月～3月:企画の実施

③地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、「稼ぐ」ビジネスを立案するでもなく、その中間の方法を用いる。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学んで欲しい。

④年間を通じて1～2回/月程度、イベント開催日は除く。

⑤2名以上の応募があった時のみ実施します。また、1年間を通じて参加できる学生を希望します。

⑥<http://casaco.jp> <https://www.facebook.com/YOKOCO.yokohama/>

**09 学生公募型PJ: 104【Toshi】uraプロジェクト**

学生代表: 松田拓巳 (連絡先: matsuda-takumi-fx@ynu.jp) 担当教員: 藤原徹平 (都市イノベーション研究院)

①誰もがバリアフリーマインドを共有できるデザインで大学を街にする。地域に開かれ、大学があるからこそその価値を地域へと還元することを目指す。

②前期は参加学生に対し課題を与え、それぞれの組織や理念についての理解を深める。後期は、課題自体を考え、どのようなことをすればいいのか楽しみながら実際の活動を通して学んでいく。

③大学や地域の課題をジブンゴトとして捉え、企画・実行する力。多様性を尊重し発展性のある議論をする力。人の興味を惹くデザイン力。

④隔週でブックラックとコーヒーハウスを開催。グループミーティングは週1で行う。

⑥<https://www.instagram.com/104ura.jp>

**10 学生公募型PJ: 和田べんプロジェクト**

学生代表: ○鈴木佑香 (連絡先: suzuki-yuka-xb@ynu.jp) 担当教員: 高見澤実 (都市イノベーション研究院)

①和田町と大学を繋げるという目的のもと、大学構内で和田町の弁当「和田べん」を販売することから始まった活動。現在はゆるキャラ「和田丸」のプロデュースや着ぐるみ出動、地域イベントの企画・運営なども行う。

②地域イベントへの参加等を利用して和田町の状況を理解し、課題設定をする。課題解決に向けて、和田べんが持つ『弁当販売』『ゆるキャラ』という武器を用いた企画を提案・実施する。

③地域の方々と信頼関係を構築しながら、地域の状況や課題を自分の目で判断する力。課題設定を行い解決のための行動を起こす力。

④月に1,2回のミーティングを基本として、イベントに向けた準備や話し合いなどを別途必要に応じて行う。

**11 学生公募型PJ: ワダヨコ**

学生代表: ○中野翔貴 (連絡先: s.soccerboy08@gmail.com) 担当教員: 野原卓 (都市イノベーション研究院)

①学生視点で和田町の魅力を汲み取り、それをまちに訪れる人や住民に感じてもらいたいことを目指しています。子どもたちに向けた「寺子屋活動」と、まちの交流の場を作る「企画活動」を主にしています。

②和田町既存のイベントとワダヨコ各班主催のイベントを月1回のペースで企画運営しています。

③町に入り込み課題を感じ取り、町を活性化させるには、①町に深く関わっていく社交性②課題解決の為の積極性③自ら行動する能動性、これらが必要です。しかし、町を好きになり、楽しく活動すれば必ず身につきます。

④各所属班による毎週1回の昼ミーティング(寺子屋班)週1の16～18時 活動(企画班)約2ヶ月に1回の主催企画

⑥Instagram @wadayoko\_

**12 New - New Townプロジェクト**

副郊外住宅地の新しいまちづくり

担当教員：○野原卓 (都市イノベーション研究院) 連絡先: noharat@ynu.ac.jp / nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線: 4065

①横浜市の特徴的な郊外住宅地の一つ銚鉄いずみ野線沿線(南万騎が原駅周辺エリア)を舞台として、地域拠点「みなまきラボ」(行政×民間×専門家)と連携しながら、ベッドタウンを生き生きと「まち」とすべく活動を展開するプロジェクト。昨年度は万騎が原中央商店街とのコラボを実施。

②4月オリエンテーション、5月～6月 みんなでまちをよく見て、課題を見つける、7月～9月 課題解決のための提案、10月～企画準備・企画実施、11月 みなまきピクニック参加

③自発的で積極的な「活動力」、自ら課題をみつけることのできる「洞察力」、全体を見渡して実効性ある企画を立てる「立案力・提案力」、地域に入り込んで地域とともに動く「巻き込み力・コミュニケーション力」、小さくてもよいから物事を実現することに力を注げる「実装力」。

④2～3週間に一度のミーティング・月一回の地域の会議参画及び地域活動(不定期)の実施

⑤地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。



# 「修了者」からのメッセージ



## 村本真菜

Mana MURAMOTO

教育人間科学部 マルチメディア文化課程 卒業  
現在、名古屋鉄道株式会社

コア科目：地域連携と都市再生A・B  
講義科目：ワークショップ「多元的共生をめざして」  
建築の環境と防災、共生支援論A  
実践科目：公共空間の活用とにぎわいづくりPJ

地域交流科目を受講する事で、まちづくりやNPOで活躍していらっしゃる外部の方と交流し、実践的な考えを知る機会を得ることが出来ました。講義で学んだ事を生かし、私は3年間、和田町商店街で賑わいづくりの活動に取り組みました。商店街や地域の住民の方々と共に和田町を盛り上げていく中で、人と人の繋がり大切さを再確認し、身近な地域に対し自分がどのように関わっていくべきかを考える事が出来るようになりました。



## 山口大地

Daichi YAMAGUCHI

経済学部 卒業  
現在、株式会社リクルート

コア科目：地域連携と都市再生B  
講義科目：ベンチャーから学ぶマネジメント、現代の物流経営、  
国際環境経済論、比較農業政策、  
途上国経済、地域イノベーション政策  
実践科目：アグリッジプロジェクト

地域交流科目では授業での経済学の理論と現場で経験する実践を並行して学ぶことで、理論がどう社会で使えるかとワクワクする授業が増え、ゼロから始まる地域活動では机上の学びが度々活かされました。また、深い自己分析そして自己実現に必要な力が鍛えられ、私の「地元を世界一のまちに」という野望に役立つヒントも自分なりに見つけました。インターンも良いですが、自分のために大学をフル利用することをオススメします(笑)



## 市木晶子

Akiko ICHIKI

経営学部 会計・情報学科 卒業  
現在、ソニー株式会社

コア科目：地域連携と都市再生A・B  
講義科目：建築の環境と防災、環境をめぐる  
諸問題、企業環境システム論  
実践科目：エコの芽を育てるプロジェクト

私は「エコの芽を育てるプロジェクト」に参画しました。1年目は上級生と私の4名でしたが、2年目は同学年の学生が加わり8名になりました。地域課題実習では学内から外に出て、地域の方に厳しくも温かいご指導を頂く機会もあります。自ら課題を設定し、積極的に動くことを通じて、沢山のものを得ることが出来ます。年度末には成果発表の機会があるので、自分のしたことをしっかりとプレゼンテーションできる能力を高めて下さい。



## 小竹 杏奈

Anna ODAKE

理工学部 海洋空間のシステムデザインEP  
現在、東京都府

コア科目：地域連携と都市再生A・B  
講義科目：建築・地域環境計画Ⅰ、  
現代の物流経営  
実践科目：おたくりクリエイティブタウン研究PJ  
ガラスシティPJ、水辺と共生するデザインPJ

在学中の4年間、毎年違うプロジェクトに参加してきました。自身の専攻以外の先生方の下で、学部も学年も違うメンバー、時には外部の方と一緒に興味ある分野について課題を考え、試行錯誤しながら解決に向けて活動していくのは本当に新鮮で、年度の終わりには毎年ものすごい達成感がありました。自分の興味に合わせて幅広く勉強、活動できる機会や環境はなかなかありません。ぜひ地域にたくさん関わってみてください。



■ 問合せ・連絡先：  
地域実践教育研究センター

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3  
横浜国立大学 経済学部1号館 406号室  
TEL&FAX : 045-339-3579  
chiki-ct@ynu.ac.jp  
<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>

